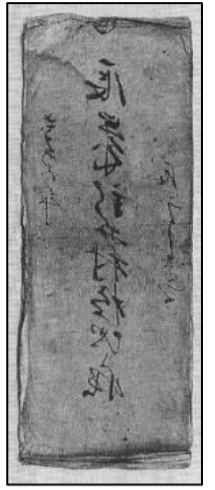
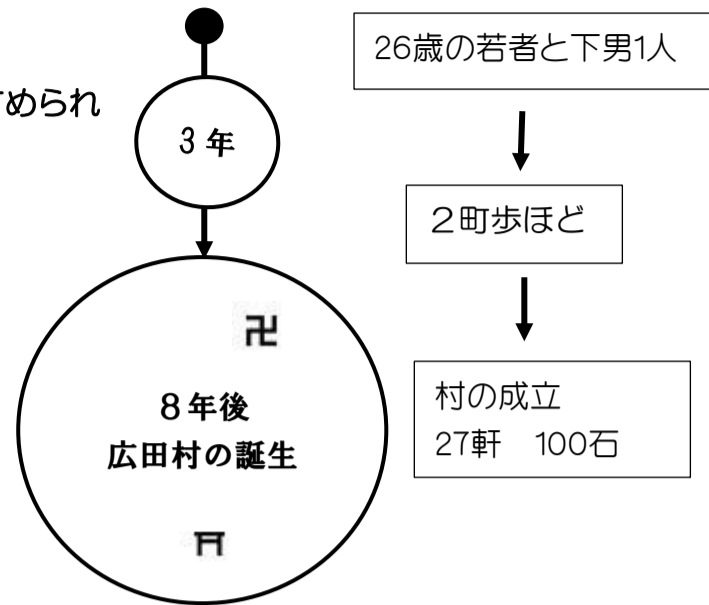


近世的村落の成立 — 広田村(鴻巣市)の事例 —

そうだったのか？

「広田村開発記」(山川出版 埼玉県史の歴史より)

- いつ頃** 天正19年(1591)の春
- 誰か** 新井弥左衛門(加須近在の出身) 26歳
- 誰に** 幕府代官の大河内金兵衛から田畑の開発をすすめられ
- 誰と** 下男一人と移住
- 親元から** 野菜などの支援
- 3年ほどすると** 2町歩ほどの開発地
- それを見て** うわさを聞いて諸方から移り住む
- 8年目** 家数27軒 村高 100石
- 代官大河内金兵衛の指示** 弥左衛門広田村の名主
- 村人囁願** 自ら開発した四町歩余の土地を歩寄進して新たに寺を開くことを領主高木に出願した。
- 広徳寺** 寛永4年(1627)建立



慶安5年新井村検地帳
矢部家文書(市史より)

この「広田村開発記」には、多数の「一家」が「一心」となって繁栄していくことを願い、弥左衛門が、慶安4年(1648)83歳の時に子孫に、家の由来を書き綴ったものである。

こうして、寛永4年(1627)に建立されたのが広徳寺である。こうした、草分百姓や開発の伝承は県内各地に残され、近世的な村落が成立する様子を伝えている。

このように、開発されてきた村は、検地を受けることにより初めて公的に認知されてきた。検地は、耕地を一筆ごとに実測し、地味や用水の利便性などを勘案して土地の生産力を米に換算し、さらに耕地ごとに年貢を負担する農民(名請人)を確定する作業である。

その結果、いくつかの集落のまとまりである行政的な「村」が確定された。この「村」は、近世を通して領主支配の単位であるとともに、農民の生活の場となっている。



代官 大河内金兵衛久綱 (おおこうち ひさつな)

元亀元(1570年) - 正保3年(1646年)は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけての武将。徳川氏の家臣。大河内秀綱の子。兄弟に松平正綱がいる。室は相模国後北条氏遺臣・深井好秀の娘(龍泉院殿)。子に長泉院(酒井親炮室)、江戸幕府老中・川越藩主松平信綱がいる。通称は金兵衛。

慶長15年(1610年)10月に家康へ仕官する。久綱は代官・勘定奉行として活躍した。関東地方の幕府直轄領の年貢に関する実務を扱い、寛永15年(1638年)に職を退いた。

史料名		武蔵田園簿 (1649~50)	元禄郷帳 (1700)	天保郷帳 (1834)	旧高旧領取調帳 (1868)
旧石戸村	下石戸上村	下石戸村 652.650	下石戸上村 307.723	308.6084	307.80873
	下石戸下村		下石戸下村 397.000		
石戸宿村	石戸町	162.750	175.540	石戸宿村 176.047	176.047
	高尾村	高尾村 376.790	458.57763	460.519	650.000
荒井村	荒井村	255.790	216.890	217.823	303.8034
			枝郷北袋村 68.075	枝郷北袋村 68.075	
東間村	東マ新田	79.800	東間村(古ハ東新田) 87.025	87.025	87.025
北本宿村	本鴻巣村	55.830	本宿村(古ハ本鴻巣) 58.468	58.538	58.538
旧深井村	深井村	324.640	上深井村 174.695	174.6941	深井村 340.2791
	(他10石、寿命院)		下深井村 175.585	176.45175	
中宮内村	宮内村	398.320	上宮内村 205.840	205.840	宮内村 403.735
			下宮内村 197.895	197.895	
丸山中村	山中村	42.200	山中村 52.165	52.165	52.165
古市場村	古市場村	146.210	152.493	152.493	152.493
北中丸村	上中丸村	248.055	250.360	250.360	中丸村 481.379
	下中丸村	216.920	232.845	232.845	
常光別所村	別所村	147.040	151.130	151.130	151.130
花ノ木村	花ノ木村	71.290	花野木村 71.495	71.495	花ノ木村 71.495
合計		3188.285	3433.80163	3440.19325	3634.08723

(単位:石)
〔武蔵田園簿〕〔関東甲豆郷帳〕〔旧高旧領取調帳〕より作成

